

女子栄養大学大学院の履修証明プログラム「健康寿命延伸のための食環境整備に関わる高度人材養成プログラム」を、平成28年度より開講しています。



文部科学省「職業実践力育成プログラム (BP)」認定  
女子栄養大学大学院「履修証明プログラム」  
健康寿命延伸のための食環境整備に関わる高度人材養成プログラム



「健康寿命の延伸」は日本社会の喫緊の課題で、現在、日本人の食料消費の約8割は加工品と外食が占めます。

健康寿命延伸のためには、外食や中食でも健康的な商品選択ができるような、食環境整備を積極的に行う必要があります。

そこで、女子栄養大学大学院は、平成28年度より、本講座を始めました。演習科目の最終日には、既卒のOB・OGの参加があるので、人脈づくりのチャンスにもなります。

## 最新の 栄養学の知識× 組織マネジメント



- 教育課程は、栄養学の最新知識を学ぶ科目群（6科目）、組織マネジメントを学ぶ科目群（4科目）、応用力形成のワークショップ演習（1科目）で構成。
- 女子栄養大学大学院の教授陣と、社会の第一線で活躍する実務家教員が授業を担当。ワークショップ演習は両者のコラボによる学修。

## 社会人でも 学びやすい 受講環境



- 例年9月から2月までの土曜日・日曜日・祝日の昼間の時間帯（埼玉県坂戸キャンパスまたは都内駒込キャンパス）及び平日の夜間の時間帯（都内駒込キャンパス）に開講。
- 欠席した場合には、大学のe-learning システムを活用して補講が可能。

## 受講生の声



### ここが良かった！

- 他分野、多職種の間がいて新しい人脈ができた
- 向学心の高い受講生同志の交流、演習のワークは刺激的で楽しかった
- 栄養学の系統だった学び直しができた
- 経営学や健康経営の学びは初めてで新鮮だった

### 特典

- プログラム修了者には、学校教育法に基づく「履修証明書」を発行します。
- 厚生労働省の専門実践教育訓練講座に指定されており、「**専門実践教育訓練給付金**」の支給申請手続は、受講開始日の1ヶ月前までに住所地のハローワークへ行う必要があります。詳細はハローワークへお問い合わせください。受講修了後に**受講料の半額**が給付されます。
- また、本プログラム受講後に、本学大学院の修士課程に入学した場合、一部の単位を大学院正規課程修了に必要な単位として認定することが可能です。

## 教育課程の構成と時間数

### A : 栄養学の最新知識を学ぶ科目群 6 科目

- 健康・栄養政策の動向と食環境整備
- 食事摂取基準とフレイル
- 各種生活習慣病の予防・治療のガイドライン
- 周産期栄養と時間栄養学
- 食事アセスメントと食事計画
- 在宅医療と地域の食生活支援システム・多職種連携

### B : 組織マネジメントを学ぶ科目群 4 科目

- 経営戦略・組織管理論
- ビジネスエコノミクス
- 企業における健康経営論
- フードサービスにおけるマネジメント

### C : 応用力を修得するための演習科目 1 科目

#### 実践栄養学専門演習（多職域合同ワークショップ）

さまざまなセッティング（給食の現場、スーパーマーケット、ドラッグストアなど）で、健康的な食品・食事，及び栄養情報の提供を行う上での課題発見・解決（Issue finding）のワークショップ演習を小グループに分かれて実施。検討結果を全体で発表し、講師と共に総合討議を行う。

# 組織マネジメントを学ぶ科目群（4科目）の学修目標と学修内容の概要

科目名	学修目標	学修内容の概要
経営戦略・組織管理論	<p>経営者および管理者として必要な経営戦略の知識を身に付ける。企業や事業を率いる立場において、将来の方向性をどのように考えるべきか、具体的なフレームワークなどの理解を通じて身に付けられるようにする。また、戦略策定に不可欠な経営管理、組織管理面の論点についても言及し、鳥瞰図的な観点から経営や事業を把握できるようになることを目指す。</p>	<p>前半は、講義を中心に、経営戦略の概要、外部環境分析（市場進化の方向性と競争のメカニズムを知る）、内部資源分析（競争優位性の所在と組織について知る）、事業経済性分析（競争優位性の所在と組織について知る）、全社戦略と事業ポートフォリオマネジメント（事業が複数ある場合のマネジメントと経営管理を知る）を学び、後半は、ケースメソッドやグループ演習を集中的に行う。具体的な事例に触れて前半で学んだ知識を活かして自ら考えることを促す。</p>
ビジネスエコノミクス	<p>我が国の産業構造とそれを取り巻く経済環境の変遷を学び、現在の諸問題について議論する。当講座では、まずはマクロ経済や企業の見方など、経済を理解する上での基本項目を学ぶ。その上で、戦後、特に、バブル崩壊後の日本の経済構造と企業形態の変遷を踏まえて、内外の政治経済が更に大変動する中で、我々はどのように対応すべきかを考えていきたい。</p>	<p>経済、企業を理解する上で、単に理論ではなく基本的な数値を理解することが必要である。これらは経済指標であり企業の財務諸表である。授業では、まずこれらの基本事項を理解してもらい、本論に進む。授業は現実に則したテーマ（日本的経営、グローバル金融危機、AI時代の経済など）についてスライド、映像を基に説明を加え、講師と受講生との双方向の対話形式で行う。また事例研究で議論を行う。</p>
企業における健康経営論	<p>企業が取り組む健康経営における思想や、企業経営における意味を理解し、その実践において必要な知識や手法、また先進事例を学び理解する。</p>	<p>教科書をもとに講義形式で学ぶ。グループディスカッションやテキストのまとめの発表なども実施する。産業界全体の動向、経営者の立場から、管理監督者の立場から、働く人の立場から、産業界の立場からなど、健康経営を多面的に学ぶ。必要に応じて健康経営に取り組むゲスト講師による講義や、健康経営を学ぶ勉強会への参加等を行う事もある。</p>
フードサービスにおけるマネジメント	<p>給食を中心としたフードサービスにおけるマネジメント（経営管理）の管理手法を理解する。</p>	<p>給食を中心としたフードサービスにおけるマネジメント（経営管理）の管理手法を現場の事例をもとに理解する。特に、労務、原価、品質、マーケティングなどの理解をもとに、目標設定、組織化、システム化などの管理者としての理解を深める。</p>

(ワークショップ発表の様子)



(大学院教室での授業の様子)



(2019年度修了式)

